

国際会議等参加旅費補助金報告書

2020 年 10 月 31 日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 桜美林大学大学院 国際学研究科
国際人文社会科学専攻 博士後期課程1年

氏 名 杉山 智風



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会 議 名 称 ※正式名称および 日本語訳	50th Congress of the European Association for Behavioural and Cognitive Therapies 第 50 回ヨーロッパ行動療法認知療法学会
公式ホームページ URL	https://eabct2020.org/
開 催 期 間	2020 年 9 月 2 日 ～ 2020 年 9 月 5 日
旅 行 期 間	2020 年 9 月 2 日 ～ 2020 年 9 月 5 日
開 催 場 所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Athens Concert Hall, Athens, Greece ギリシャ, アテネ, アテネコンサートホール
発 表 者 氏 名 ※全員の名前と所属 日本語表記	杉山智風 ¹ ・新川瑤子 ² ・藤野佳奈 ² ・伊藤大輔 ³ ・小関俊祐 ⁴ (桜美林大学大学院国際学研究科 ¹ ・桜美林大学大学院心理学研究科 ² ・ 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 ³ ・桜美林大学リベラルアーツ学群 ⁴)
発 表 題 目 ※正式名と日本語訳	Group cognitive behavioral therapy for Japanese students affected by the Hiroshima heavy rain disaster of July 2018 西日本豪雨に被災した高校生を対象とした集団認知行動療法の効果の検討
補 助 金 額	11,873 円 (内訳 学会参加費として)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、日本心理学会より国際会議等参加旅費補助金制度からご助成いただき、50th Congress of the European Association for Behavioural and Cognitive Therapiesに参加することができました。心より感謝申し上げます。本会議での研究発表や、その成果について報告させていただきます。

【大会概要】

2020年9月2日から2020年9月5日にかけて開催された、50th Congress of the European Association for Behavioural and Cognitive Therapiesに参加させていただいた。本来はアテネにて開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン形式での開催となった。本会議は、European Association for Behavioural and Cognitive Therapiesにより毎年開催されている国際会議である。「社会的・文化的に多様な環境における認知行動療法の適用を目指して」という本会議のテーマ通り、医療、産業、学校教育などさまざまな分野の実践家や研究者が参加している印象を受けた。期間中はシンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション、ポスター発表が行われた。

【自身の研究発表について】

報告者は、"Group cognitive behavioral therapy for Japanese students affected by the Hiroshima heavy rain disaster of July 2018"という題目で、ポスター発表を行った。この発表では、介入対象者となった高校生が通う地域の被害状況を踏まえ、抑うつ状態像が異なる生徒が同一の集団に含まれる場合の心理的介入に関する発表を行った。その結果、抑うつ高群においては抑うつの改善がみられ、抑うつ高群と抑うつ低群においてレジリエンスの向上が確認されたという報告をした。今回の発表では、より精度の高い介入効果の検討を行ううえで、レジリエンスだけではなく、従来の研究にて明らかにされてきた、抑うつに直接的な影響を及ぼすとされる認知的あるいは行動的変数についても、検討を行う必要性について指摘があった。また、分析方法の改善についても、貴重なアドバイスをいただいた。これらの点に関して、今後の学会発表や論文文化では今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。

初めてのオンラインでの開催ということもあり、言葉の壁に加えて、音声の聞き取りにくさなどもあったことで、質疑応答では十分な回答を行えないときがあったことが悔やまれる。しかし、温かい言葉をかけてくださった訪問者がいてくださったことで、積極的に誠意ある態度で回答をすることの大切さを強く実感することができた。今後、より一層英会話能力の習得や、自らの分野における専門知識についての理解を深めていきたい。

以上のことから、本会議に参加したことは、自身の研究についての振り返りと、今後の研究推進に向けて、大変貴重な機会となりました。また、英会話能力をはじめとする、研究者としての資質の向上に努めていく必要性を改めて認識致しました。今回いただいた経験を活かすためにも、今後の研究活動に精一杯努めて参りたいと思います。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2020 年 8 月 25 日
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 東京大学大学院 教育学研究科

氏 名 廣戸 健悟



□

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会 議 名 称 ※正式名称および 日本語訳	The 32 nd International Congress of Psychology 第 32 回 国際心理学会
公式ホームページ URL	https://www.icp2020.com/
開 催 期 間	2020 年 7 月 19 日 ～ 2020 年 7 月 24 日
旅 行 期 間	2020 年 7 月 18 日 ～ 2020 年 7 月 25 日
開 催 場 所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Czech Republic, Prague, Prague Congress Center チェコ共和国, プラハ, プラハ国際会議場
発 表 者 氏 名 ※全員の名前と所属 日本語表記	東京大学 教育学研究科 教育心理学コース 廣戸健悟
発 表 題 目 ※正式名と日本語訳	Toddler's prosocial behavior in the adjustment process 幼児の調整プロセスにおける向社会的行動
補 助 金 額	100,000 円 (内訳 参加費および宿泊代・航空運賃のキャンセル代として) 申請書提出後, 航空運賃の一部が返金されたため, その分を参加費代に充当する

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は, その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

【大会延期について】

2020 年 7 月 19 日～7 月 24 日にかけて、The 32nd International Congress of Psychology (ICP) がチェコ共和国のプラハで開催される予定であった。その中で、申請者は「Toddler's prosocial behavior in the adjustment process」という題目でポスター発表を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当該大会は来年 2021 年 7 月 18 日～7 月 23 日への延期が決定した。そのため、本年度の大会への参加は叶わなかった。

【補助金の使用状況に関する報告】

補助を受けた 100,000 円は、参加費および往復航空券旅費のキャンセル代、宿泊費のキャンセル代として使用した。

【最後に】

この度は、国際学会への参加旅費補助金を与えてくださった日本心理学会、ならびに選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。特に、このような未曾有の状況下における貴学会の柔軟な対応に深謝申し上げます。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2021 年 4 月 16 日

(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻心理学分野 博士課程後期

氏 名 李受珉



下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会 議 名 称 ※正式名称および 日本語訳	The 2021 Society for Personality and Social Psychology's Annual Convention 2021 年人格社会心理学会
公式ホームページ URL	http://meeting.spsp.org/
開 催 期 間	2021 年 2 月 9 日 ～ 2021 年 2 月 13 日
旅 行 期 間	年 月 日 ～ 年 月 日
開 催 場 所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	オンライン開催 (本来は, United State of America, Texas, Austin アメリカ合衆国・テキサス州・オースティン)
発 表 者 氏 名 ※全員の名前と所属 日本語表記	李受珉 (広島大学大学院教育学研究科) カビール ラッセル サーワー (広島大学大学院人間社会科学研究科) 中島健一郎 (広島大学大学院人間社会科学研究科)
発 表 題 目 ※正式名と日本語訳	Evaluating the Psychometric Properties of Shift-and-Persist Strategies with Item Response Theory 項目反応理論を用いた Shift-and-Persist Strategy の心理測定特性の評価
補 助 金 額	0 万円 (内訳)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピー, および旅費等の領収書原本を添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は, その旨を該当事項欄に明記して下さい。

国際会議等参加報告書

この度は、日本心理学会により国際会議等参加費補助金に採択され（学会参加費は、日本学術振興会から補助を受けたため、旅費はバーチャル開催により発生しなかったため辞退）、The 2021 Society for Personality and Social Psychology's Annual Conventionに参加し、ポスター発表を行いました。以下に、本学会での活動内容ならびにその成果について、ご報告させていただきます。

大会概要

The 2021 Society for Personality and Social Psychology's Annual Convention は、2021 年 2 月 9 日～2 月 13 日にかけてアメリカ合衆国・テキサス州・オースティンにて開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大によりバーチャル開催となった。今回は、初めてのバーチャル開催だったにもかかわらず、4,200 人以上が参加した。学会は「Whova」というサイトを用いて行われ、メッセージチャットやコミュニティボードへの投稿を通し、プレカンファレンスやポスターセッション、各種シンポジウムにおいて活発な議論が行われた。また、若手研究者の就職や論文執筆について議論するセッションも設けられていた。

発表内容の概要

shift-and-persist strategy とは、ストレスの対処方略のことであり、shift と persist という 2 つの異なる概念から構成される。shift は、日々の生活の中でのストレスフルな出来事の良い側面について考え、ストレスフルな出来事に直面した際に感情をコントロールすることを通して、外部環境に自分自身を適応させることを目的とした戦略である。persist は、人生の意味を見出し、逆境に耐える強さ、自身の将来に対する前向きな見通しを持つことを通して、適応することを目的とした戦略である。Chen and Miller (2012) は、身体生理的反応に着目した検討を通して、shift と persist がともに高いことが社会経済的地位の低い人々の身体的健康を顕著に促す、すなわち 3 要因の交互作用効果を示している。また、Nakashima and Lee (2016) や Lee and Nakashima (2020) では shift-and-persist strategy が社会経済的地位の低い人々の精神的健康においても有効であることを明らかにしている。

しかし、これまでの日本国内における shift-and-persist strategy の研究の中で用いられている shift-and-persist strategy 日本語版の尺度は、既存の尺度よりも適合度が低く、特に persist 第 4 項目の適合度が低い。そのため、日本人を対象とした研究では、この persist 第 4 項目を削除してデータを分析しており、海外の研究との整合性が確かめられていないまま研究が進められているのが現状である。日本国内において shift-and-persist strategy 研究を精緻化していくためには、尺度の再検討を行う必要があると考え、その第一歩として shift-and-persist strategy を測定する尺度の特性を、項目反応理論の観点から検討した。その結果、測定精度とモデルの適合性は、persist の第 4 項目を除くすべての項目で満足できるものであったため、信頼性が低いとされた persist の第 4 項目を再評価する必要があることが示唆された。

対面での学会とは異なり、バーチャル学会ではオーディエンスの即時的な反応が確認できないことや、音声や動画のアップロードが原則できなかったため、一枚のポスター発表の資料から自身の研究に関する説明を行わなければならないという難しさがあった。この経験を活かし、これから行われるバーチャル国際学会では、自身の研究のアピールや資料の作り方を工夫し、より多くの人々と研究の議論ができるよう、積極的に取り組む所存である。

最後に

この度は、今回の国際学会への参加にあたりまして、補助金の支援をいただき、貴重な機会をいただきましたことを、心より感謝を申し上げます。